

「言う」って、どう言う？

夏 休みの家族旅行。長いドライブのため、いくつな時間に2人の子どもたちが、ことば遊びのゲームを始めた。

- ♪「バナナ」と言ったら「黄色」
- ♪「黄色」と言ったら「ひまわり」
- ♪「ひまわり」と言ったら「夏」…

前の人が出たことばから連想したことばを、リズムに合わせて言っつないでいくゲームだ。子どもたちは交互に言っついでいくのだが、「〇〇と言ったら△△」の「言っつたら」の発音が2人で違う。10歳の息子は「イッつたら」と言うのに対し、13歳の娘は「ユッつたら」と言う。十数分続いたゲームの間ずっと、2人の発音が揺らぐことはなかった。

「言う」についてNHKのアクセント辞典を見ると、「イウ」という見出し語は立っており、[ユウ]で掲載している。なんと、「言う」の発音に「イウ」はなくて、「ユウ」があるだけなのだ！ これを知ったときは大きな衝撃だった。私自身は「イウ」と発音しているつもりでいたし、私が「言う」と言っつているときの音は、他の人にも「イウ」と聞こえていると思っつていたからだ。しかし確認してみると「[ユウ]に聞こえます」と言う人もいる。

日本語のことばには「イ」と「ユ」の発音のゆれが起こるものがある。「イオー／ユオー」(硫黄)、「アイ／アユ」(鮎)、「カワイ／カウイ」(可愛い)のように、かつては両

方の発音がなされていたが今では前者に収斂けんしてしまっているものもあれば、「イク／ユク」(行く)のように両方が残っているものもある。一方、「言う」は、国語審議会の過去の議論や昭和61年の内閣告示「現代仮名遣い」によると、「[ユウ]と発音してきたが、活用するときの語幹「い」にそろえて「いう」と書くことにした」のだという。

しかし、誰もがどんなときにも必ず「ユウ」と発音しているのだろうか。「言っつたら」に「イッつたら」と「ユッつたら」があるように、「言う」にも「イウ」という発音があるのではないだろうか。少なくとも私の場合は、「結う」と「言う」の発音は違っつていて、「言う」は「イウ」に近い音で言っつている(つもりである)。また、会話のなかで「っつて言うか…」と言っつるときには「ユウ」と言っつているが、大勢の人を前に話をするとき「…と、言う人もいます」と言っつるのであれば、私としては「イウ」と言っつているつもりで話すはずなのだ。

この主張、ドライブ中のゲームで必ず「イッつたら」と言っつていた息子ならきつとわかってくれるに違っつない！ と思っつていたら、ある日、その息子が私に怒りながら言っつていた。

「だったら、そうゆつたらいいじゃん！」
——理解者はほかで探すことにしよう。

太田眞希恵(おた まきえ)